

日時：2019年9月9日 1:00-13:45

場所：北九州国際会議場

1. 理事長挨拶（吉田）

（ア）台風の間東襲来の中、集まって頂き感謝する。ここ2～3年で学会の若返りも進んできている。  
2019年10月からは一期三年の学会の役員任期交代となり、新体制での更なる発展が望まれる。

2. 報告事項

（ア）事務局報告（大槻）

- ① 会員動向：資料に沿って説明された。現在は会員199名、今年度が始まってからは、退会者より入会者がやや多い。
- ② 会費納入状況：資料に沿って説明された。例年85%前後の納入率である。今年度からシクミネット会員管理（しゅくみねっと株）を導入したことで、未納者の減ることが望まれる。
- ③ バナー状況：2018年3月末で唯一残っていたバナー（株大熊）も撤退し、現在は掲載なし。半期3万円は、学会にとっては大きいですが、企業にとって学会WEBへのバナー掲載がそれほど費用対効果が生じるとも思えず、静観している。
- ④ 事務局業務：資料により現在事務局で行っている内容を紹介。新体制への参考事項。

（イ）学術年会報告

① 第25回（つくば）報告（野原、代理・大槻）

1. 実施概要（資料はImmunoTox Letter 46号の学会開催報告記事）がほうこくされた。

② 第26回（北九州）報告（佐藤）

1. ご参集に感謝とともに台風15号の影響で関東からの交通の便が心配されるが、明日から二日間、よろしくお願ひしたい。
2. 昨日開催の市民講座も患者さんなどを含めて多数の参加であった。

③ 第27回（東京）報告（角田）

1. 会期：2020年9月26日（土）～27日（日）
2. 場所：北里大学プラチナタワー12階（東京都港区白金5-9-1）
3. テーマ：免疫毒性学の過去・現在・未来
4. 予定内容：シンポジウム「免疫毒性学の過去・現在・未来」  
（ア）シンポジスト予定：鳥山茂光先生、角田郁生先生、高野政志先生
5. 一般演題発表
6. 海外招聘講演：Nicholay (Nick) Filipov 教授（ジョージア大学獣医学部生理学薬理学教室）
7. ランチョンセミナー

（ウ）委員会報告

① 学術・編集委員会（角田）

1. 学術年会アンケート

(ア)第 25 回 (つくば)

- ① 結果は WEB および ImmunoTox Letter に掲載した。
- ② 今回も実施予定である (QR コード付きでデジタルでの回答も可能にしている)。

2. 学会賞・奨励賞選考結果

(ア)第 9 回 (2019 年) の受賞者は、学会賞・上野光一先生、奨励賞は福山朋季先生と佐々木永太先生。9 月 10 日の授賞式と受賞講演が予定されている。

3. ImmunoTox Letter の発刊

(ア)Vol.23-2(通巻 46 号)を 2018 年 12 月に、Vol.24-1 (通巻 47 号)を 2019 年 6 月に発刊した。

4. 米国 SOT の ITSS Newsletter への JSIT からの投稿 (西村委員担当)

(エ)広報委員会 (大槻)

- ① 会員管理システムの導入と 2019 年度会費からそのシステムによる納入を開始した旨、報告された。
- ② 送信専用アドレスに返信した時に、間違っただレスに返信した由の自動返信機能があると助かるとの意見があり、尋ねてみることにした。
- ③ 庶務よりも報告したが WEB のバナーは現在無で、これは企業としてもおそらくメリットが無さそうで、継続的に依頼をするかどうかとも検討課題となろうということが報告された。

(オ)試験法委員会 (久田)

- ① ワークショップについては 9 月 10 日に実施予定である。AOP について特に日本免疫毒性学会で担当している部分について現状と将来を報告する。
- ② 免疫毒性 AOP 開発
  1. 資料に沿った報告がなされた。ワークショップでも報告するとともに、AOP 開発からの既学会発表について紹介された。
- ③ JaCVAM 関係 (井上)
  1. 試験法についての評価委員会については串間理事に担当を変更予定である。
- ④ OECD/MITA assay について
  1. 資料に沿って説明があり、現在 Global evaluation に入っていて、今後 Review Paper の作成に本学会からも 1~2 名の招集があるとのことで、串間理事、2 名であればさらに間理事を推薦の予定であることが報告された。

(カ)連携学会委員会 (中村、吉岡)

- ① SOT のシンポジウム (2020 年 3 月 15-19 日@アナハイム)
  1. シンポジウム企画として採択され、JSIT からの派遣は佐藤実理事とする。
  2. 今後、可能なら JSIT の年会に ITSS の執行部 (ITSS は毎年代表者が変更となる)を招聘することで強固で継続的な連携に発展する可能性があることが提言された。
- ② 日本毒性学会との共同セッション
  1. 第 26 回 (徳島) では 6 月にシンポジウムを開催し、多くの聴衆もあり好評であった。
  2. 隔年で共同シンポジウムを企画し、次回は第 48 回 (神戸) を予定する。

③ 第 27 回学術年会と連携した HESI (Health and Environmentl Sciences Institute)とのジョイント・セミナーについて

1. 中村委員より説明が行われた。
2. 第 27 回の翌日 (2020 年 9 月 28 日 (月)) に既に角田年会長に確保してもらった年会と同じ会場で、HESI による教育プログラムを開催したい (HESI よりは米国のみならず日本でも実施したい) とのこと。
3. 詳細については後日連絡する由、報告された。

④ Dr. Mitchell Cohen(ニューヨーク大学)への特別名誉会員称号の授与について。

1. 長年 SOT-ITSS と本学会の国際交流について甚大な尽力を頂いた Dr. Cohen に対して、特別名誉会員として表彰することが諮られ承認された。

(ア)2020 年 3 月 28 日に第 90 回日本衛生学会学術総会 (盛岡) に日本衛生学会から招聘している。その際に、中村、吉田、大槻で日本衛生学会会場で授与を行う予定であることが報告された。

(キ)将来構想 WG (黒田)

- ① ここ 3 年の WG の活動で、若手の年会への参加と発表が増加してきていることが報告された。
- ② 年会の若手優秀発表賞については、学会本体で基準を決める方が良い可能性もあり本 WG を中心に案を練ることで了承された。
- ③ WG と年会企画との連携を取っていくことも承認された。

(ク)事業報告 (吉田) (配布資料あり)

- ① 業務報告について吉田理事長より報告された。

3. 審議事項

(ア)会計 (斎藤)

- ① 2018 年決算案
    1. 資料に沿って報告され承認された。
  - ② 2018 年監査報告 (上野)
    1. 報告書に沿って監査報告がされ、承認された。
  - ③ 2020 年予算案
    1. 資料に沿って報告され承認された。
- (ア)2020 年からは学会賞・奨励賞の副賞は廃止される。

(イ)人事 (大槻)

- ① 名誉会員：運営委員会から上野光一会員を推薦され満場一致で承認された。
- ② 特別名誉会員：Dr. Cohen を特別名誉会員とすることが承認された。
- ③ 理事：2019 年 10 月から 2022 年 9 月までの理事として、会員総数の約 10%として、現行の 21 名から 20 名に委嘱することとして、現在の評議員の投票の結果と運営委員会での推薦を受け、以下の 20 名に新理事を委嘱することが承認された。
- ④ 新理事 (下線は新任)：間 哲生、井上 智彰、串間 清司、黒田 悦史、小池 英子、小坂 忠司、小島 弘幸、斎藤 嘉朗、佐藤 実、新藤 智子、角田 正史、手島 玲子、中村 和司、中

村 亮介、西村 泰光、久田 茂、姫野 誠一郎、吉岡 靖雄、山浦 克典、吉田 貴彦

⑤ 新監事：運営委員会からの推薦を受け、野原恵子会員と森本泰夫会員に2019年10月から2022年9月までの監事を委嘱することが承認された。

⑥ 新評議員：①青木重樹会員（千葉大学）と②李順姫会員（川崎医科大学）の推薦があり、評議員を委嘱することが承認された。

⑦ 次々期年会長：満場一致で手島理事に次々期年会長を委嘱することが決定した。

1. 手島次々期年会長より以下の開催概要が報告され承認された。

(ア)期日：2021年9月6日（月）～7日（火）予定

(イ)会場：岡山理科大学獣医学部大講義棟（愛媛県今治市）

(ウ)年会長：手島玲子（岡山理科大学獣医学部食品衛生講座）

(エ)テーマ 自然免疫と獲得免疫のかかわりを考える

(オ)企画：シンポジウム、教育講演、特別講演、試験法ワークショップ、一般演題（詳細は検討中）

⑧ 新理事長：中村和市理事に就任頂くことが満場一致で決定された。

(ウ)業務計画（吉田）（配布資料あり）

① 業務計画について資料に沿って提案され承認された。

②

4. 次期年会長挨拶（角田）：スライドに沿って挨拶が行われた。多くの会員の参集を求める由、報告された。

5. 次々期年会長挨拶（手島）：スライドに沿って挨拶が行われた。多くの会員の参集を求める由、報告された。

6. 新理事長挨拶（中村）：後、運営委員会なども含めて、業務分担と中堅若手の登用によって更なる活性化を図りたい由、提言された。全会員のご協力をお願いしたいと申し出があった。

# 日本免疫毒性学会 2019年 総会

## 議事次第

I. 理事長挨拶 (吉田理事長)

## II. 報告事項

### [1] 事務局報告 (大槻)

- ① 会員動向
- ② 会費納入状況
- ③ バナー現状
- ④ 事務局 (総務・広報) 業務

### [2] 学術年会報告

- ① 第25回開催報告 (野原前年会長、代・大槻)
- ② 第26回開催報告 (佐藤年会長)
- ③ 第27回準備状況 (角田次期年会長)

### [3] 委員会報告

- ① 学術・編集委員会 (角田委員長)
  - (1) 第25回年会時アンケート結果
  - (2) ImmunoTox Letter 編集報告 (新藤理事)
  - (3) 学会賞・奨励賞選考小委員会 (手島理事)
  - (4) SOT/ITSS Newsletterへの投稿
- ② 広報委員会 (大槻)
- ③ 試験法委員会 (久田委員長)
  - (1) 試験法ワークショップ
  - (2) AOP小委員会
  - (3) JaCVAM関係 (井上理事)

### ④ 連携学会委員会 (中村委員長、吉岡理事)

- (1) SOTとの国際交流: SOT2020@Anaheim (2020.3/15-19)
- (2) 日本毒性学会との連携
- (3) HESIによるセミナー
- (4) Dr. Mitchel Cohen (New York 大学/ITSSとJSITとの窓口)について

### ⑤ 将来構想ワーキング・グループ (黒田理事)

[4] 事業報告 (吉田理事長) (業務年度: 10月から翌年9月末)

## III. 審議事項

[1] 会計 (斎藤理事) (会計年度: 4月から翌年3月末)

- ① 2018年度決算案
- ② 2018年度監査報告 (上野監事)
- ③ 2020年度予算案

[2] 人事 (事務局・大槻)

- ① 名誉会員
- ② 理事
- ③ 評議員候補
- ④ 次々期年会長

[3] 事業計画 (吉田理事長)

## IV. その他

V. 次期、次々期 年会長挨拶

## 事務局報告

### 会員動向 & 会費納入状況

会 員	2009.4.1	2010.4.1	2011.4.1	2012.4.1	2013.4.2	2014.4.8	2015.4.7	2016.4.7	2017.4.6	2018.4.3	2019.4.4	2019.8.19
会員総数	232	231	240	237	221	210	207	205	202	200	191	199
一般会員	219	219	224	222	209	197	190	189	186	189	172	175
学生会員	7	7	10	9	6	5	9	8	6	10	8	13
賛助会員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名誉会員	5	5	6	6	6	8	8	8	10	10	11	11
住所不明による休会扱い	3	4	6	3	1	0	0	1	1	0	0	0
会費納入義務者数	217	215	218	219	208	197	190	188	185	189	161/8	175/1
一般会員/学生会員	/7	/7	/10	/9	/6	/5	/9	/8	/6	/10		3

入会・退会者	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019.8.19
入 会	25	24	19	12	12	15	14	9	16	14	12
退 会	(5)	(8)	(12)	(5)	(7)	(7)	(6)	(4)	(6)	(5)	

( ) 内は会費滞納により退会処理した会員数

役 員	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019.8.19	2019.10.1~
理 事	21	22	22	22	22	22	22	21	21	21	21	20
評 議 員	58	49	49	54	47	47	54	47	49	49	52	47
監 事	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

会費納入状況	2009.3.31	2010.3.31	2011.3.31	2012.3.31	2013.3.31	2014.3.31	2015.3.31	2016.3.31	2017.3.31	2018.3.31	2019.3.31	2019.8.19
未納なし	209	206	198	190	191	174	171	163	160	159	158	122
未納あり	18	21	27	36	39	35	36	33	30	31	25	66
合 計	227	227	225	226	230	209	207	196	190	190	183	188

### 学会WEB・企業バナー

区別	継続確認	No.	ネット種別	期間	契約書	会社名	担当者	窓口
		2	機器	2008.11~掲載	2008.10.3	株式会社 大熊	森 真弓	270大槻先生
	2015.3月末	継続		2015.05-2015.10				
	2015.9月末	継続		2015.11-2016.04				
	2016.3月末	継続		2016.05-2016.10				
	2016.9月末	継続		2016.11-2017.04				
	2017.3月末	継続		2017.05-2017.10				
	2017.9月末	継続		2017.11-2018.04				
掲載中	2018.3月末	継続		2018.05-2018.10				
	2018.3月末							

# 学術年会報告 2018年@つくば

**The 25<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology**



**第25回 日本免疫毒性学会学術年会**  
 会期 平成30年9月18日・19日  
 会場 つくば国際会議場1階101・102

Date: 2018.Sep.18-19  
 Venue: Tsukuba International Congress Center  
 President: Dr. Keiko Nohara  
 Center for Health and Environmental Risk Research, National Institute for Environmental Studies  
 Theme: Discussing and deepening our insight into the interaction between the immune system and the environment

**Special Lecture**  
**Prof. Paige Lawrence** Department of Environmental Medicine, Environmental Health Science Center, University of Rochester School of Medicine & Dentistry



Video message from the president of Immunotoxicology Specialty Section of the Society of Toxicology, Prof. Jamie DeWitt



期日	2018.9.18-19.
会場	つくば国際会議場
年会長	野原 恵子 北国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター
テーマ	徹底討論！ 免疫と環境
年会賞	北海道大学大学院薬学研究員衛生化学研究室 室本 竜太
学生・若手優秀発表賞	大阪大学大学院薬学研究科毒性学分野 衛藤 舜一 静岡県立大学薬学部免疫微生物学分野 堤 正人
同時開催	第74回日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会
共催	つくば市、つくば観光コンベンション協会、日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会
協賛	日本衛生学会・日本毒性学会・日本食品衛生学会・日本毒性病理学会・日本臨床環境医学会
後援	日本アレルギー学会

# 学術年会報告 2019年@北九州

**第26回 日本免疫毒性学会学術年会**  
 The 26<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology  
 「免疫毒性学 基礎から臨床へ」

2019年 9月9日 10日

**会場** 北九州国際会議場 国際会議室(2階)  
 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目9-30

**年会長** 佐藤 実 (産業医科大学産業保健学部 成人・老年看護学講座 教授)

**特別講演**  
 "Immunotoxicology of inhaled nanoparticles and the implications for lung disease susceptibility"  
 James C. Bonner, Ph.D.  
 (Professor, Toxicology Program, Department of Biological Sciences, North Carolina State University)

**教育講演**  
 田中 良哉 先生 (産業医科大学 第一内科講座 教授)  
 矢野 和博 先生 (産業医科大学 呼吸器内科学講座 教授)

**シンポジウム**：免疫毒性から見た炎症と病態

**試験法ワークショップ**：免疫毒性AOPの開発とその目指すもの

URL: <https://www.orbit-cs.net/jsit2019>

共催：日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会  
 協賛：北九州市 (公財)北九州観光コンベンション協会

市民公開講座  
 9月10日(日)  
 小倉市民会館1F  
 がんの免疫療法  
 無料(無料)

産医大 産業保健学部 成人・老年看護学講座  
 082-8355 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目9-30  
 TEL: 082-831-7879 FAX: 082-839-1742  
 E-mail: jsit@orbic.ac.jp health\_research@orbic.ac.jp

**テーマ 免疫毒性 基礎から臨床へ**

**会期** 2019年9月9日・10日

**会場** 北九州国際会議場 国際会議室(2階)  
 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目9-30

**年会長** 佐藤 実  
 (産業医科大学産業保健学部 成人・老年看護学講座 教授)

学術年会準備状況報告  
 2020年9月26～27日@東京  
 最後に



## 委員会報告 学術・編集委員会

### 1. 学会賞・奨励賞選考結果

学会賞・奨励賞選考小委員会（委員長、手島玲子先生）で選考が行われ、理事会の承認を得て、第9回（2019年）の受賞者は下記の通りに決定した。

**学会賞** **上野 光一** 先生（千葉大学予防医学センター）

※医薬品開発における免疫毒性学的評価研究

**奨励賞** **福山 朋季** 先生（麻布大学獣医学部薬理学研究室）

※農薬等の環境中化学物質がアレルギーに及ぼす影響の基礎研究

**佐々木 永太** 先生（国立感染症研究所 血液・安全性研究部）

※ヒト末梢血単核細胞(PBMC)および新規末梢血ヒト化マウスを用いたアジュバントの安全性評価法の構築とワクチン開発への応用

### 2. ImmunoTox Letter 発刊

（WEBに open access、MLにて会員への案内、WEBでは単元ごとの表示もあり）

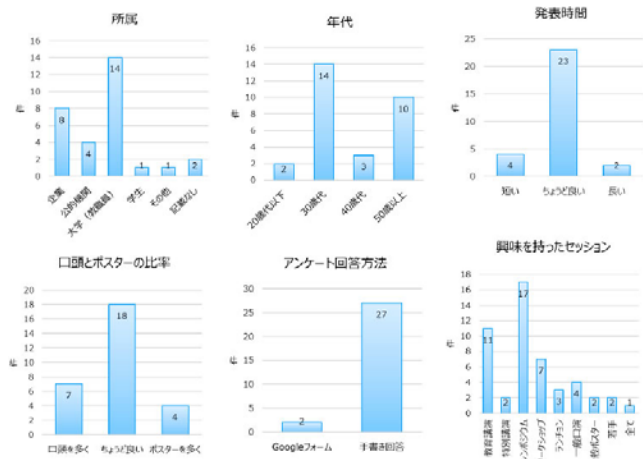
通巻46号（23巻2号） 2018年12月発刊

通巻47号（24巻1号） 2019年6月発刊

### 3. 第25回学術年会でのアンケート結果

上記のImmunoTox Letter Vol. 23-2、および学会ホームページで結果を報告した。

### 4. SOT/ITSSのNewsletter 冬号へのJSITからの投稿



## 委員会報告 広報委員会

- 2019年1月より会員管理システムを「しゅくみねっと(株)」に移管。
- 2019年3月に会員に移管の連絡 → 2019年度会費納入（4月以降）より会員管理システムにて実施
- メール配信についても、会員管理システムを利用（←送信専用メールアドレスなのだが、運営委員会などの限定された要件の場合に、時にそのまま返信されるケースも散見されている。慣れて頂けば、対応可能と判断）。
- 会員番号が刷新されたため、メールでは、会員番号も含める配信をしている。

## 委員会報告 試験法委員会

### 試験法WS 9/10 14:35 – 16:35

- **OECD AOPプロジェクト**：小島 肇  
(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター安全性予測評価部)
- **免疫毒性AOPの経緯**：久田 茂 (あすか製薬(株)創薬研究本部)
- **カルシニューリン阻害によるTDAR抑制に関するAOP**：大石 巧 ((株)ボゾリサーチセンター御殿場研究所研究部)
- **新規開発中の免疫毒性に関するAOP**：松村匠悟 (アステラス製薬(株)研究本部安全性研究所)
- **IL-1シグナリング阻害による免疫毒性に関するAOP**：相場節也 (東北大学医学研究科・医学部 皮膚科)
- **免疫毒性AOP開発が目指すもの**：足利太可雄 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター安全性予測評価部)

### 免疫毒性AOP開発

#### カルシニューリン阻害によるTDAR抑制に関するAOP

- 2015年から開発を開始した。
- 2018年6月28日、OECD EAGMST会議において、内部レビューを通過した。さらに、内部レビューアーのコメントに対応して、2019年2月末に外部レビューの対象となるAOPを最終化して、外部レビューに進んだ。しかしながら7月現在で、本AOPに対する外部レビューアーが決定していない。

#### 新規AOPの開発

- 現在、以下の3件のAOPを開発している。
  1. JAK3阻害によるTDAR抑制：後藤玄、福山朋季、吉田安宏
  2. Toll用受容体 (TLR) 7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発：小松弘幸、秦信子、松村匠吾 (検討中)
  3. エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪：大坪靖治、小西寿美恵、伊藤志保
- 3件のAOP開発に関するSPSFを昨年11月末にOECDに提出した。
  - ✓ 2018年12月18日のEAGMS会議において、Work planとして採択された。
  - ✓ 2019年6月のEAGMST会議で担当コーチが決定した。
    - コーチ制度：コーチの先生と協議して内部レビューをパスするAOPを効率的に作成することを目指すこととなった(2018年12月のEAGMST会議で決定された)。
  - ✓ AOP 1、2 は作成が先行しており、コーチとの協議を通して原案を改定し、本年12月までにAOP Wikiへの登録を完了して、EAGMST会議において、内部レビューを依頼することとした。3 の作成は少し遅れる。

## 委員会報告 試験法委員会

### 学会発表：

第1回医薬品毒性機序研究会 (2019年1月10日～11日、名古屋大学野依記念学術交流館)

- シンポジウム6：免疫関連因子から医薬品毒性を考える
  - ✓ OECD AOPプログラム及び免疫毒性AOP開発の現状と将来 (大石巧)

第46回日本毒性医学会学術年会 (2019年6月26日～28日、徳島市)

- シンポジウム：AOPに基づく毒性作用機序
  - ✓ 免疫毒性AOPの開発 (大石巧)

### JaCVAM (Japanese Center for the Validation of Alternative Methods) 関係 (井上委員)

- 試験法について行政に取り込まれるかが重要
  - ✓ 評価委員会は2～3カ月に一度、国立医薬品食品衛生研究所にて開催 (串間新理事に担当を変更予定)  
(その他の構成員も変更が出そうなので、小島肇先生からの依頼待ちで、理事長から連絡予定)
- OECD/MITA assayの申請：T細胞IL-2受容体のルシフェラーゼで検定する手法
  - ✓ Global evaluation が始まっている。
  - ✓ Review Paper の作成に日本免疫毒性学会からも1名ないしは2名の招集が加わる
  - ✓ 串間先生、加えて、2名なら間先生を推薦



## 委員会報告 連携学会委員会

### SOT/ITSSとの国際交流

- ◆ SOT2020のシンポジウム応募  
(2020年3月15-19日@アナハイム/CA)
  - Title: Can we predict and manage immune-related adverse events associated with cancer immunotherapy?
  - Chairs: **Yoshioka, Yasuo**; Myers, Peyton
  - Presenters: Haggerty, Helen; **Satoh, Minoru**; Ikeda, Hiroaki; Myers, Peyton
  - 7/06 Eメール: Tentatively accepted as Symposium in 2020SOT
  - JSITとしての派遣は佐藤実先生
- ◆ 今後のSOT/ITSSとの国際交流については、ITSSの執行部(向こうは毎年、代表が交代)を年会講演者として招聘することで、継続的かつ強固な連携にしていきたい。

### 日本毒性学会との共同セッション

- ◆ 第46回日本毒性学会(2019年6月@徳島)での合同セッション
  - シンポジウム: 「免疫毒性研究のポテンシャル」(座長・黒田悦史/吉岡靖雄) 演者: 中山勝文\*、白砂孔明、福山朋季\*、角大悟\*、李順姫\*、柴田寛子\* (\*会員8/15現在)
- ◆ 日本毒性学会との合同シンポジウムは隔年ペースを予定
  - 次回2021年7月7~9日: 第48回日本毒性学会学術年会@神戸国際会議場

### 第27回学術年会とHESI (Health and Environmental Sciences Institute) とのジョイントについて (中村委員)

- オファーがあり検討~主に企業会員(会員以外も)の参加者を想定
- 第27回の日程(2020年9月26~27日)の翌日の月曜日(場所は、北里大学研究所プラチナタワー)

### Dr. Mitch Cohen (NewYork大学) に対して、特別賞を授与

- 本学会とSOT-ITSSとの学術連携に永らく貢献されてきた
- 授与は、2020年3月26から28日に盛岡市で開催される、第90回日本衛生学会学術集会に来日される時。

## 委員会報告 将来構想WG

- ◆ 日本毒性学会の合同シンポジウムでは、本学会の若手の勢いを十分にアピール、かつ、第26回の学術年会のPR
- ◆ 若手本学会員が勧誘また初年度参加費免除も紹介してくれている。
- ◆ 若手の mailing listについては準備中
- ◆ 来年度以降の企画: 勧誘の趣旨
  - 学会員がフラットな立場で討論
  - 口演発表の充実
  - 小規模な分だけ繋がりが生じ易い(意見交換や共同研究)。
  - 学会の企画(←今後の重要性): 高名あるいは新進気鋭の研究者による企画セッション+懇親会
- ◆ その他
  - 年会毎で年会の若手優秀賞の応募資格が替わる事(←検討したが、現状では、年会長に一任となった)。
  - 30代・新進気鋭の研究者のシンポジウム企画。非会員でも内容として合致する研究者の招聘。

# 日本免疫毒性学会事業報告（2018年10月から2019年9月）

## 1. はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2018年に第25回の学術大会を迎え、その歩みを続けています。免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として学際的な学会として機能を継続しつつ、今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持し、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実するため、国内の関連学会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との交流を継続していきます。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業について取組んでいきます。

学会の持続的発展を可能とするため、経済的安定性を高めるとともに、役員や各種委員会への若手会員の登用を一層すすめたいと思います。また、新たな学会への参加者を増やすための工夫を取り入れつつありますが、会員の皆様からも多くの方への入会の動めをお願いいたします。

会計報告は、4月から翌年3月の期間で行っています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

## 2. 事業（2018年10月から2019年9月まで）

- 2019年の理事会の開催  
2019年9月8日、北九州市にて開催されました。
- 2019年の総会・評議委員会の開催  
2019年9月9日、北九州市、北九州市国際会議場にて開催されました。
- 第26回日本免疫毒性学会学術年会の開催  
第26回日本免疫毒性学会学術年会を、2019年9月9～10日、北九州市、北九州市国際会議場にて、年会長：佐藤実理事（産業医科大学産業保健学部・成人老年看護学講座教授）のもとに開催されました。年会テーマは「免疫毒性 基礎から臨床へ」です。URL：<https://www.orbit-cs.net/jsit2019/>
- ImmunoTox Letterの発行  
下記の2号を刊行しました。  
23巻第2号（通巻46号、2018年12月号）  
24巻第1号（通巻47号、2019年6月号）
- 学会賞及び奨励賞の授与  
第9回（2019年）学会賞は上野光一先生（千葉大学 予防医学センター）に、奨励賞は佐々木永次先生（国立感染症研究所 血液・安全性研究部）と福山朋季先生（麻布大学獣医学部 薬理学研究室）に授与しました。なお、次回から副賞については廃止されます。
- 第27回日本免疫毒性学会学術年会の開催準備  
第27回日本免疫毒性学会学術年会を、東京都にて、角田正史理事（防衛医科大学校衛生学公衆衛生学講座教授）を年会長として開催の準備が進められています。期日：2020年9月26から27日、会場：北里大学プラチナタワー、年会テーマは未定です。
- 第58回米国トキシコロジー学会年会への派遣  
2019年3月10日から14日の第58回米国トキシコロジー学会年会（Baltimore）で、世界の関連学会の活動をポスター展示するグローバル・ギャラリーに、参画しました。なお、JSITとSOT-ITSSとの共同企画に基づくシンポジウムの提案は採択されなかったため、本学会からの派遣はありませんでした。
- 第28回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定  
2021年に開催される第28回日本免疫毒性学会学術年会の担当は、手島玲子理事（岡山理科大学獣医学部食品保健講座教授）に決まりました。
- 関連学会等との連携企画の開催  
2019年6月26日から28日に徳島で開催された第46回日本毒物学会（姫野年会長）において、6月27日に日本免疫毒性学会合同シンポジウム「免疫毒性研究のポテンシャル」を開催しました。座長は、黒田、吉岡両理事が務めました。第26回日本免疫毒性学会学術年会は、第76回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会との共催としました。

## 3. 事務局及び諸委員会の活動

- 以下の活動を行いました。
- 事務局（総務担当：大槻理事）  
会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助各会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務名簿作成  
（会計担当：斎藤理事）
    - 一般会計及び基金会計に関する事務
    - 予算書及び予算書の作成
  - 運営委員会（委員長：吉田理事）  
2018年12月15日、2019年7月28日に開催し、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図りました。
  - 学術・編集委員会（委員長：角田理事）  
角田理事の委員長のもと、ImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図っています。また、英語版の発行も継続して行います。米国SOT-ITSSのNews letterへのJSITメンバーからの年に1回の定期的な投稿を継続しています。
  - 広報委員会（委員長：大槻理事）  
継続して学会ホームページ（スマホ版も含む）の定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めています。
  - 試験法委員会（委員長：久田理事）  
本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第26回学術年会（2019年9月に、北九州市、北九州国際会議場）でワークショップ「免疫毒性 AOP の開発とその目指すもの」を開催しました。
    - AOP小委員会  
JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた、医薬品を対象としたAOP（Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査）について、13名の本学会員からなるAOP小委員会が対応しています。AOP154は2019年内で完遂の予定です。さらに、3から4つのAOP案を提案し2019年内にEAGMSTレビューを受ける事を目指しています。AOPについて、本学会初め国際会議や研究会にて担当者が公表しました。
    - JaCVAM関連  
JaCVAMによるMITA アッセイの評価委員として、本学会から串間理事が井上理事の後任として参画しています。また、同アッセイのDRP(detailed review paper)の外部評価委員も務めています。
  - 連携学会委員会（委員長：中村理事）  
第26回学術年会事務局及びSOT-ITSSの補助により、第26回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、年会長とSOT-ITSSの協議のうえ、Dr. James C. Bonner, (Professor, Toxicology Program, Department of Biological Sciences, North Carolina State University, USA) を招聘しました。  
また、本学会とSOT-ITSSとの交流事業に位置付けられている共同学術企画提案を継続し、2020年3月15日から19日の第59回米国トキシコロジー学会年会（Anaheim）に、シンポジウム「がん免疫療法との免疫関連有害事象の予測法/回避法の開発」を佐藤理事が担当して提案しプログラムに採択されました。
  - 将来構想WG（リーダー：黒田・吉岡理事）  
黒田、吉岡両理事を中心として編成された将来構想WGにおいて、若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討が進められ、第26回日本免疫毒性学会学術年会において、非学会員の年会での発表受けを継続するとともに、初回の年会費免除の試みを行いました。また、過去に参加された非会員の方に、年会の案内を行うなど、学会員数の増加を計り活性化を図っています。

## 4. 予算

- 2018年度通常会計報告（2018年4月1日～2019年3月31日）  
別紙のとおり
- 基金会計  
別紙のとおり。基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能ながら、予算措置を必要とする案件に備えるものです。

# 人事

## (1) 名誉会員

会員番号 135： **上野 光一** 先生

理事、運営委員、監事、第18回学術大会年会長

## (2) 特別名誉会員：Prof. **Mitchell Cohen** (New York Univ.)

SOT/ITSS とJSITの国際交流への長年の功績

## (2) 理事（2019年10月～2022年9月）（五十音順：下線は新理事）

間 哲生	井上 智彰	串間 清司	黒田 悦史	<u>小池 英子</u>
小坂 忠司	小島 弘幸	斎藤 嘉朗	佐藤 実	新藤 智子
角田 正史	手島 玲子	中村 和市	<u>中村 亮介</u>	<u>西村 泰光</u>
久田 茂	姫野 誠一郎	吉岡 靖雄	山浦 克典	吉田 貴彦

## (3) 評議員候補 青木 重樹 先生（会員番号00000672）

千葉大学大学院薬学研究員 分子薬学治療学講座 生物薬剤学研究室

推薦者：吉岡 靖雄 評議員、中村 亮介 評議員

李 順姫 先生（会員番号00000628）

川崎医科大学 衛生学教室

推薦者：黒田 悦史 評議員、大槻 剛巳 評議員

## (4) 年会長

2021年 **手島 玲子** 先生（岡山理科大学獣医学部@今治）

## (5) 次期理事長（2019年10月～2022年9月）

**中村 和市** 先生

# 会計 2018年度決算 (案)

## 日本免疫毒性学会 2018年度 決算案

通常会計

(単位円)

### 収入

科目	予算	決算	備考
前年度(2017年度)繰越金	1,389,150	1,389,150	会計管理分1,176,641円、事務局管理分212,509円
2018年度会費	1,478,000	1,462,000	内訳(一般:150人×8千円、過去年度のべ30人×8千円、学生:のべ11人×2千円)
ホームページ・バナー広告	60,000	60,000	1社×2期×3万円:60,000円
JACVAM委託費(2018年度分)	500,000	500,000	JaCVAM・小島先生より学会に委託(AOP作成費)
雑収入	14	6,825	銀行預金利子15円、サンメディア(NLコピー)810円、抄録集販売(2,000円×3冊)6,000円
収入合計	3,427,164	3,417,975	

### 支出

科目	予算	決算	備考
第26回学術年会(北九州)運営費	600,000	600,000	2019年度年会長:佐藤先生
第57回SOT年会派遣助成	100,000	0	2019年3月メリーランド州ボルチモア(共同シンポジウム不採択)
会議費	400,000	340,180	会議費(運営委員交通費:第66回、第67回、第67回会場費、お茶代)。
通信費	70,000	46,478	切手、レターパック、電話
事務費	150,000	175,044	名誉会員記念品、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ作成・維持費	200,000	223,264	ホームページ更新、サーバーレンタル料、ドメイン使用料
JACVAM委託費	500,000	517,734	AOP会議用旅費、委員謝礼クオカード、振込手数料
会員管理費	0	113,594	シクミネット初期設定費用、1-3月分費用
予備費	1,407,164	1,401,681	次年度(2019年度)への繰越見込み
支出合計	3,427,164	3,417,975	

### 基金会計

#### 収入

科目	予算	決算	備考
前年度(2017年度)繰越金	1,369,120	1,369,120	
第25回学術年会(つくば)返金	0	254,879	
雑収入	86	86	銀行預金利子(定期預金)
収入合計	1,369,206	1,624,085	

#### 支出

科目	予算	決算	備考
学会賞、奨励賞 副賞	80,000	50,000	学会賞(手島先生):5万円×1、奨励賞(串間先生):3万円は帰国後に支出
予備費	1,289,206	1,574,085	次年度(2019年度)への繰越見込み
支出合計	1,369,206	1,624,085	


# 会計 2018年度決算 (案) : 監査報告

## 2018年度日本免疫毒性学会

### 会計監査報告書

2018年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしましたので、ご報告いたします。

2019年 8月 3日  
上野光一

上野光一 

2019年 8月 8日  
高野裕久

高野裕久 

# 会計 2020年度予算 (案)

## 日本免疫毒性学会 2020年度 予算案

### 通常会計

#### 収入

(単位円)

科目	予算	備考
前年度(2019年度)繰越金見込み	1,203,696	
2020年度会費	1,462,000	2018年度実績1,462,000円
2020年度分JACVAM委託費	500,000	JaCVAM小島先生より(AOP作成費)
雑収入	15	2018年度実績は、銀行預金利子15円
収入合計	3,165,711	

#### 支出

科目	予算	備考
第28回学術年会(未定)運営費	600,000	2021年度年会長:未定
第60回SOT年会派遣助成	100,000	2021年3月フロリダ州オーランド
会議費	400,000	会議費(委員交通費、2018年度実績340,180円)
通信費	30,000	レターパック、電話(2018年度実績46,478円)
事務費	80,000	名誉会員記念品、アルバイト代、振込料金等(2018年度実績175,044円)
ホームページ維持費	230,000	2018年度実績223,264円
会員管理費	200,000	シクミネット 1ヶ月16,394円×12ヶ月=196,728円
JACVAM委託費	500,000	2018年度実績517,734円
予備費	1,025,711	次年度(2021年度)への繰越見込み
支出合計	3,165,711	

### 基金会計

#### 収入

科目	予算	備考
前年度(2019年度)繰越金見込み	1,434,171	
雑収入	86	銀行預金利息(2018年度実績86円)
収入合計	1,434,257	

#### 支出

科目	予算	備考
予備費	1,434,257	次年度(2021年度)への繰越見込み
支出合計	1,434,257	

## 日本免疫毒性学会事業計画 (案) (2019年10月から2020年9月)

### 1. はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2018年に第25回の学術大会と着実な歩を進め、免疫学と毒性学の接点について多方面から係る異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能して来ましたが、今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、医学・生物学の新たな技術的展開に対応できる、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実するため、国内の関連学会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会(SOT-ITSS)との交流も継続してきました。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業について取組んでいます。

学会の持続的発展を可能とするため、世代交代と人材養成を図るために、役員や各種委員会への若手会員の登用をすすめ体制の強化を今後も行います。また、会員・入金管理一体型サービスを導入し会員の皆様へのサービス拡充に努めます。

会計年度は4月から翌年3月の期間としています。また、補充役員の任期は、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日としています。

### 2. 事業計画(2019年10月から2020年9月まで)

- 2020年の理事会の開催  
2020年9月25日、東京にて開催の予定です。
- 2020年の総会・評議委員会の開催  
2020年9月26日、東京にて開催の予定です。
- 第27回日本免疫毒性学会学術年会の開催  
第27回日本免疫毒性学会学術年会(2020年)の年會を、角田正史理事(防衛医科大学校衛生学公衆衛生学講座教授)のもと、2020年9月26日から27日、東京都白金、北里大学プラチナタワーにて開催されます。学会テーマは未定です。
- ImmunoTox Letterの発行  
下記の2号の刊行を予定しています。  
24巻第2号(通巻48号、2019年12月号)  
25巻第1号(通巻49号、2020年6月号)
- 学会賞及び奨励賞の選考  
第10回(2020年)学会賞・奨励賞の選考を行います。
- 第28回日本免疫毒性学会学術年会の準備  
第28回日本免疫毒性学会学術年会(2021年)の年會が、手島玲子理事(岡山理科大学獣医学部食品保健講座教授)のもと、2021年9月6日から7日、今治市、岡山理科大学今治キャンパスにて開催の企画がなされています。
- 第59回米国トキシコロジー学会年会  
2020年3月15から19日の第59回米国トキシコロジー学会年会(Anaheim)で、世界の関連学会の活動をポスター展示するグローバル・ギャラリーに、参画する予定です。本学会とSOT-ITSSとの交流事業に位置付けられています共同学術企画提案しましたシンポジウム「がん免疫療法委員会の免疫関連有害事象の予測法/回避法の開発」がプログラムに採択されました。本学会から共同提案者となった佐藤理事を派遣いたします。
- 関連学会等との連携  
2020年9月開催の第26回日本免疫毒性学会学術年会(東京都)を第28回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会との共催とする予定です。  
また、日本毒性学会との連携として、第48回日本毒性学会(神戸市、2021年7月7から8日)において、免疫毒性をテーマとした学術集會を企画します。

### 9) 特別表彰

本学会とSOT-ITSSとの学術連携に永らく貢献されてきたDr. Mitch Cohen (New York大学) に対して、特別賞を授与する事としました。授与は、2020年3月26日から28日に盛岡市で開催される、第90回日本衛生学会学術集會に來日される時に行います。同時に、名誉会員の称号を授与します。

### 3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定しています。

- 事務局  
(総務担当:山浦理事)  
会員の異動、会員(名誉一般・学生・賛助各会員・休会員)数の推移と会費納入状況の把握、自動退会(会費未納退会)の整理等の事務  
(会計担当:斎藤理事)  
一般会計及び基金会計に関する事務  
予算書及び予算書の作成
- 運営委員会(委員長:新理事長)  
2019年12月、2020年6月に開催し、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図ります。なお、2019年12月の運営委員会はネット会議とします。
- 学術・編集委員会(委員長:角田理事)  
ImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。  
第10回(2020年)学会賞ならびに奨励賞の授賞のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。
- 広報委員会(委員長)  
継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実にも努めます。
- 試験法委員会(委員長:久田理事)  
本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第27回学術年会(2020年9月、東京都白金、北里大学プラチナタワー)でワークショップを開催します。  
JaCVAMによるMITA アッセイの評価委員およびDRP(detailed review paper)の外部評価委員として、本学会から申元理事が参画しています。  
JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた、医薬品を対象としたAOP(Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査書)作成について、引き続き取り組んでいきます。
- 連携学会委員会(委員長)  
2020年の第27回学術年会事務局及びSOT-ITSSの補助により、第27回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、年會長とSOT-ITSSの協議のうえ講師として、Dr. Nickikolay Filipov (Professor, School of veterinary medicine, University of Georgia, USA) を招聘する予定です。  
また、本学会とSOT-ITSSが共同提案したシンポジウム「がん免疫療法委員会の免疫関連有害事象の予測法/回避法の開発」が2020年3月の第59回米国トキシコロジー学会年会(Anaheim)のプログラムに採択されました。
- 将来構想WG(リーダー:黒田・吉岡理事)  
学会の持続的発展を可能とするため、特に、若手会員の新規参入者を増やすための方策について引き続き検討を進めます。

### 4. 予算

- 2019年通常会計予算(2019年4月1日~2020年3月31日)  
別紙のとおり
- 基金会計  
別紙のとおり。基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、通常会計では対応不可能ながら、予算措置を必要とする案件に備えるものです。



## 学術年会予定 2020年(第27回) @東京

### 第27回 日本免疫毒性学会 学術年会



日時 2020年9月26日(土)～27日(日)  
会場 北里大学 プラチナタワー12階  
(東京都港区白金5-9-1 最寄り駅: 恵比寿駅、渋谷駅、白金高輪駅)

テーマ 「免疫毒性学の過去・現在・未来」

予定内容  
シンポジウム  
「免疫毒性学の過去・現在・未来」  
一般演題発表  
海外招待講演  
ランチョンセミナー

年会長 角田正史 (京都医科大学免疫学講座名誉教授)

### プログラム (予定)

- ▶ 海外招待講演  
▶ 演者: Nicholay (Nick) Filipov 教授  
(ジョージア大学獣医学部  
生理学薬理学教室)
- ▶ シンポジウム  
「免疫毒性学の過去・現在・未来」  
シンポジスト (予定)



「黎明期のウイルス研究と免疫学: 野口英世と同時代研究者(仮)」鳥山茂光先生  
「多発性硬化症の病態解明における免疫学の寄与(仮)」角田郁生先生  
「腫瘍免疫学の臨床応用の現状と展望(仮)」高野政志先生

## 学術年会予定 2021年(第28回) @今治



期日 2021年9月6日-7日 予定

会場 岡山理科大学獣医学部  
大講義棟

年会長 手島玲子  
岡山理科大学獣医学部  
食品衛生講座

テーマ 自然免疫と獲得免疫の  
かかわりを考える

シンポジウム、教育講演、特別講演、  
試験法ワークショップ、一般演題  
(詳細は検討中)

(獣医学部ホームページ:<http://www.vet.ous.ac.jp>)